

事業所名 グループホーム 和楽の家久米

日付 平成 20年 1月 21日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 薬剤師・介護支援専門員

介護経験歴 7年

自主評価結果を見る (工事中)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)(記述式)

昨年の記録簿は書き方が行動表になっていましたが、本年度の記録簿は入居者の話した言葉も記載され、一目で情景が浮かぶようになっていました。管理者やケアマネージャーなどはグループホームを良くするにはどうすればよいか常に考え、2ヶ月ごとに職員全員参加のサービス向上会議を開き意見交換しています。連絡ノートには大事なことが分かりやすく書かれていました。職員みんなが目を通せるように工夫がほどこされ、重要事項が分かり易く書かれていました。

信頼できる医師が近くにいて、医療との連携も良く取れています。また医師とのコミュニケーションも良く、緊急時の対応にも問題はないようです。

和楽の家久米では介護度によりユニットを分けることで、入居者の生活を守る工夫がされています。また比較的自分で生活がなんとか出来る入居者のユニットでは花を生けたり、塗り絵や、歌を歌ったりして楽しい生活を過ごしています。

介護度により職員の勤務体制を変え、個別の対応をしています。全介助の入居者もいますが、職員は良くやっているとと思います。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

- ・運営推進会議を開催することで、グループホーム和楽の家久米は地域の住民に理解されています。イベントや催しをして近隣の住民が馴染めるように試みていますが、まだまだ浸透していないようです。行政とは大変うまくいっています。
- ・職員の入れ替わりもあるので、定期的な会議で全体のレベルアップを図っています。入居者への接し方などに職員間で差が見られ、それも良い個性ですが、基本的な係りは統一した方が良いと思います。
- ・職員は自分の仕事に追われているためか入居者と話す時間が少ないようです。食事の後、入居者がテレビをじっと見ているだけなので、一緒にテレビを観る等、多少関った方が良いと思います。また食事の際も職員は片づけを優先し、一緒にテーブルに書くことも少なく、見守りが少し不足しているようにみえました。もう少し同じ空間で同じ時間を過ごしてはいかがでしょうか?また入居者の介助で居室に入ったとき、居間には職員が誰もいない場面が時々見られました。職員同士の声かけ等の連携をご検討してみてもはいかがでしょうか。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	地域や家族に愛されるグループホームにしたいと考えています。誰でも利用できるふれあいセンターのようになることを目指しています。運営推進会議などを通じて行政との関係は大変よく出来ています。地域の人たちにグループホームの存在を周知してもらい、気軽に立ち寄ってもらえるように日々努力しています。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	入居者のほとんどは地元の人なので、溶け込みやすい環境です。入居時に他の入居者に言葉かけをするとさらに受け入れやすくなるようです。住んでいた地域の名前を出すとみんな分かれます。職員も地元の人が多いので、話もはずむようです。また入居者は地域柄、農作業をしてきた方が多いのでグループホームにある畑で野菜を作ったり、近くにある河原に野草を取りに行ったりすると喜ばれます。介護度によってユニットを分けています。比較的自分で出来るユニットでは花を生けたり、塗り絵や体操、歌を歌ったりすることで生活に深みができ、楽しんでいました。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	グループホームにある畑で野菜作りをしています。入居者の多くは農作業をされていたようです。自分では取り組めなくなった入居者も作業を職員に指導しています。また、近くの河原から草花を取ってきて、それをみんなで生けています。入居者には好評のようです。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	2ヶ月ごとにサービス向上会議を開いています。職員は全員参加するようです。外部の研修会に行ったときの内容を話したり、入居者の状態を話し合ったりしています。また日ごろから連絡ノートをつくっていて、すべての職員が目を通すようにしています。		